

Applic NO 10/815,755
Filing date 4/2/04
Inventor Masao
Takekuma
Docket no 0505-1291
PUS1
B5KB 703205
8000

日 本 国 特 許 庁
JAPAN PATENT OFFICE

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出 願 年 月 日
Date of Application: 2 0 0 4 年 3 月 8 日

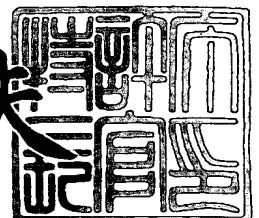
出 願 番 号
Application Number: 特 願 2 0 0 4 - 0 6 4 1 9 6
[ST. 10/C]: [J P 2 0 0 4 - 0 6 4 1 9 6]

出 願 人
Applicant(s): 本 田 技 研 工 業 株 式 有 限 公 司

2 0 0 4 年 3 月 3 0 日

特 許 庁 長 官
Commissioner,
Japan Patent Office

今 井 康 夫



出 証 番 号 出 証 特 2 0 0 4 - 3 0 2 5 9 6 3

【書類名】 特許願
【整理番号】 H103050002
【提出日】 平成16年 3月 8日
【あて先】 特許庁長官 殿
【国際特許分類】 B62J 9/00
B62J 15/00
【発明者】
【住所又は居所】 埼玉県和光市中央1丁目4番1号 株式会社本田技術研究所内
【氏名】 竹島 正雄
【特許出願人】
【識別番号】 000005326
【氏名又は名称】 本田技研工業株式会社
【代理人】
【識別番号】 100064908
【弁理士】
【氏名又は名称】 志賀 正武
【選任した代理人】
【識別番号】 100108578
【弁理士】
【氏名又は名称】 高橋 詔男
【選任した代理人】
【識別番号】 100101465
【弁理士】
【氏名又は名称】 青山 正和
【選任した代理人】
【識別番号】 100094400
【弁理士】
【氏名又は名称】 鈴木 三義
【選任した代理人】
【識別番号】 100107836
【弁理士】
【氏名又は名称】 西 和哉
【選任した代理人】
【識別番号】 100108453
【弁理士】
【氏名又は名称】 村山 靖彦
【先の出願に基づく優先権主張】
【出願番号】 特願2003-102129
【出願日】 平成15年 4月 4日
【手数料の表示】
【予納台帳番号】 008707
【納付金額】 21,000円
【提出物件の目録】
【物件名】 特許請求の範囲 1
【物件名】 明細書 1
【物件名】 図面 1
【物件名】 要約書 1
【包括委任状番号】 9705358

【書類名】 特許請求の範囲**【請求項 1】**

車輪を覆うフェンダの傾斜面部に下方に凹む収納凹部を設けるとともに、該収納凹部の開口部を開閉するリッドを揺動可能に設けたことを特徴とする鞍乗り型車両の収納部構造。

【請求項 2】

前記収納凹部は前記フェンダに一体成形されていることを特徴とする請求項 1 記載の鞍乗り型車両の収納部構造。

【請求項 3】

前記収納凹部の周囲には該収納凹部よりも浅い周囲凹部が全周にわたって形成されており、前記リッドの裏面には閉状態で前記周囲凹部に全周にわたって当接するシール部材が設けられていることを特徴とする請求項 1 または 2 記載の鞍乗り型車両の収納部構造。

【請求項 4】

前記周囲凹部の前記収納凹部側の境界縁部全周に上側に突出する隔壁部が形成されていることを特徴とする請求項 3 記載の鞍乗り型車両の収納部構造。

【請求項 5】

前記収納凹部を有する収納凹体が前記フェンダとは別体とされ、該収納凹体が前記フェンダに設けられ前記リッドを軸支する支持部を備えたことを特徴とする請求項 1 記載の鞍乗り型車両の収納部構造。

【請求項 6】

前記リッドの裏面側から延出する連結アーム部が、前記周囲凹部の下部位置に形成された貫通穴を通過して、前記フェンダの裏面側の揺動支持部に回動可能に連結されていることを特徴とする請求項 3 または 4 記載の鞍乗り型車両の収納部構造。

【請求項 7】

前記揺動支持部には前記リッドを開方向に付勢するスプリングが設けられていることを特徴とする請求項 6 記載の鞍乗り型車両の収納部構造。

【請求項 8】

前記車輪は左前輪であることを特徴とする請求項 1 乃至 7 のいずれか一項記載の鞍乗り型車両の収納部構造。

【書類名】明細書**【発明の名称】鞍乗り型車両の収納部構造****【技術分野】****【0001】**

本発明は、鞍乗り型車両の収納部構造に関する。

【背景技術】**【0002】**

鞍乗り型車両の収納部構造に関するものとして、フェンダの外表面に箱型の物入装置をボルトを用いて取り付けるものがある（例えば特許文献1参照）。

【特許文献1】実開昭60-158984号公報

【発明の開示】**【発明が解決しようとする課題】****【0003】**

上記特許文献1に記載のものは、フェンダの外表面に箱型の物入装置を取り付けるものであるため、フェンダの外表面から物入装置が出っ張ることになり、外観上好ましくない。また、物入装置が目立たないようにその出っ張り量を抑えると収納スペースが狭くなって十分な収納量を確保できなくなってしまう。また、出っ張り量を抑えると取り付けの向きによっては開口部が狭くなり、収納物の出し入れがしにくくなってしまう。

【0004】

したがって、本発明は、外観性を向上させることができるとともに、十分な収納量を確保でき、さらに収納作業性を向上させることができる鞍乗り型車両の収納部構造の提供を目的とする。

【課題を解決するための手段】**【0005】**

上記目的を達成するために、請求項1に係る発明は、車輪（例えば実施形態における左前輪12（12a））を覆うフェンダ（例えば実施形態における左前フェンダ部31）の傾斜面部（例えば実施形態における傾斜面部33）に下方に凹む収納凹部（例えば実施形態における収納凹部35）を設けるとともに、該収納凹部の開口部（例えば実施形態における開口部41）を開閉するリッド（例えば実施形態におけるリッド70）を揺動可能に設けたことを特徴としている。

【0006】

請求項2に係る発明は、請求項1に係る発明において、前記収納凹部は前記フェンダに一体成形されていることを特徴としている。

【0007】

請求項3に係る発明は、請求項1または2に係る発明において、前記収納凹部の周囲には該収納凹部よりも浅い周囲凹部（例えば実施形態における周囲凹部44）が全周にわたって形成されており、前記リッドの裏面には閉状態で前記周囲凹部に全周にわたって当接するシール部材（例えば実施形態におけるシール部材89）が設けられていることを特徴としている。

【0008】

請求項4に係る発明は、請求項3に係る発明において、前記周囲凹部の前記収納凹部側の境界縁部全周に上側に突出する隔壁部（例えば実施形態における隔壁部49）が形成されていることを特徴としている。

【0009】

請求項5に係る発明は、請求項1に係る発明において、前記収納凹部を有する収納凹体（例えば実施形態における収納凹体118）が前記フェンダとは別体とされ、該収納凹体が前記フェンダに設けられ前記リッドを軸支する支持部を備えたことを特徴としている。

【0010】

請求項6に係る発明は、請求項3または4に係る発明において、前記リッドの裏面側から延出する連結アーム部（例えば実施形態における連結アーム部75、76）が、前記周

凹部の下部位置に形成された貫通穴（例えば実施形態における貫通穴 50, 51）を通過して、前記フェンダの裏面側の揺動支持部（例えば実施形態における揺動支持部 58, 59）に回動可能に連結されていることを特徴としている。

【0011】

請求項 7 に係る発明は、請求項 6 に係る発明において、前記揺動支持部には前記リッドを開方向に付勢するスプリング（例えば実施形態における回動付勢スプリング 91）が設けられていることを特徴としている。

【0012】

請求項 8 に係る発明は、請求項 1 乃至 7 のいずれか一項に係る発明において、前記車輪は左前輪であることを特徴としている。

【発明の効果】

【0013】

請求項 1 に係る発明によれば、フェンダの傾斜面部に下方に凹む収納凹部を設けるとともに、この収納凹部の開口部を開閉するリッドを揺動可能に設けたため、フェンダの外表面からの出っ張りを防止できる。したがって、外観性を向上させることができる。また、フェンダの傾斜面部に下方に凹む収納凹部を設けたので、出っ張りを防止した上で収納スペースを広くでき開口部も広くできる。したがって、十分な収納量を確保でき、収納作業性を向上させることができる。さらに、フェンダの傾斜面部に下方に凹む収納凹部を設けていることから、収納作業性を向上させるためにこの収納凹部の開口部を開閉するリッドを大きく開くようにしても収納凹部から収納物が落下することがない。したがって、収納物を落下させることなく、収納作業性を向上させることができる。しかも、収納凹部が傾斜面部に形成されていることから、収納凹部の水平方向の断面積よりも開口部の開口面積の方が大きくなるため、収納作業性をさらに向上させることができる。

【0014】

請求項 2 に係る発明によれば、収納凹部がフェンダに一体成形されているため、部品点数増を抑制することができるとともに、コスト増も抑制できる。

【0015】

請求項 3 に係る発明によれば、収納凹部の周囲にこの収納凹部よりも浅い周囲凹部が全周にわたって形成されているため、この周囲凹部に閉状態のリッドを嵌め込むことができ、フェンダと閉状態のリッドとを面一にすることができる。したがって、外観が良好になる。また、リッドが閉状態では裏面に設けられたシール部材が周囲凹部に全周にわたって当接するため、収納凹部内に雨水等が入り込むことを防止することができる。したがって、収納凹部の確実な防水性を確保することができる。しかも、閉状態のリッドをシール部材で開方向に付勢することができるため、閉状態のリッドの遊びによるがたつきを規制することができる。したがって、走行中にリッドががたついて異音が生じることを防止できる。

【0016】

請求項 4 に係る発明によれば、周囲凹部の収納凹部側の境界縁部全周において上側に隔壁部が突出するため、収納凹部内に雨水等が入り込むことを隔壁部によって確実に防止することができる。したがって、収納凹部の確実な防水性を確保することができる。また、この隔壁部に閉状態のリッドのシール部材を当接させれば、シール部材を大きく変形させることができ、閉状態のリッドをシール部材で開方向に強く付勢することができるため、閉状態のリッドの遊びによるがたつきを確実に規制することができる。したがって、走行中にリッドががたついて異音が生じることを確実に防止できる。

【0017】

請求項 5 に係る発明によれば、フェンダとは別体とされた収納凹部にリッドを軸支する支持部が備えられているため、フェンダ側にリッドを軸支する場合に比してコンパクトにできる。また、収納凹部と支持部との位置が出しやすい。

【0018】

請求項 6 に係る発明によれば、リッドを大きく揺動させて収納凹部を大きく開口させる

ためにリッドの連結アーム部を収納凹部よりも外側の周囲凹部に形成された貫通穴を介してフェンダの裏面側の揺動支持部に支持する構造を採用した場合に、このとき形成される貫通穴を周囲凹部の下部位置に形成することで周囲凹部に進入した雨水をシール部材外側の周囲凹部で案内し良好に貫通穴から排出させることができる。したがって、周囲凹部に雨水が溜まるのを防止できる。

【0019】

請求項7に係る発明によれば、リッドの裏面側に設けられたシール部材の付勢力に加えて揺動支持部のスプリングの付勢力で閉状態のリッドを開方向に付勢するため、閉状態のリッドの遊びによるがたつきを確実に規制することができる。したがって、走行中にリッドががたついて異音が生じることを確実に防止できる。しかも、スプリングの付勢力でリッドの開作動を助勢するため、円滑な開作動が可能である。

【0020】

請求項8に係る発明によれば、左前輪のフェンダに収納凹部が設けられているため、例えば停車中に乗員が跨った状態で右手のブレーキレバーを握った状態のまま左手だけで良好にリッドを開閉して収納物を出し入れすることができる。

【発明を実施するための最良の形態】

【0021】

本発明の第1実施形態の鞍乗り型車両の収納部構造を図1～図6を参照して以下に説明する。なお、以下の説明における前後左右は車両の前進時の進行方向における前後左右である。

【0022】

図1は、不整地走行を主目的とする鞍乗り型車両（いわゆるバギー車）を示す斜視図である。

【0023】

この鞍乗り型車両11は、車体の前後左右の四隅に配置された車輪12と、車体の略中央位置に搭載されたエンジン13およびトランスミッション14を有するパワーユニット15と、車体前側上部に左右方向に延在するように設けられて前側の車輪12の操舵が入力されるハンドルバー16と、ハンドルバー16に支持されたヘッドライトユニット17と、ハンドルバー16の後側に設けられた燃料タンク18と、燃料タンク18の後側に設けられたシート19と、樹脂製の車体カバー20とを有している。なお、この鞍乗り型車両11はエンジン13の図示略のクランクシャフトが前後方向に延在するいわゆる縦置型とされている。

【0024】

車体カバー20は、前側の車輪12を含む車体前部を覆うフロントカバー22と、フロントカバー22の左右両側に設けられて前側の車輪12の上部をフロントカバー22の側部とともに覆うフロントマッドガード23と、フロントカバー22およびフロントマッドガード23の後側に設けられて前側の車輪12の後部を覆う左右のサブフェンダ24と、フロントカバー22の後側にあつて燃料タンク18から車体の左右側部を覆うセンタカバー25と、センタカバー25の後側にあつて車体後部を覆うリヤカバー26と、サブフェンダ24の後側に設けられて車体側部を覆う左右のセンタマッドガード27と、センタカバー25の後端側とセンタマッドガード27との間に設けられて車体側部を覆う左右のエンジンサブカバー28とを有している。

【0025】

そして、フロントカバー22の左前輪12（12a）を覆う左前フェンダ部（フェンダ）31に第1実施形態の収納部構造が適用されている。

【0026】

左前フェンダ部31は、ほぼ水平に沿って左前輪12（12a）の上部を覆う上面部32と、この上面部32の後方に設けられて左前輪12（12a）の後側上部に沿うように湾曲しつつ後側ほど下側に位置するように水平に対し傾斜する傾斜面部33とを有しており、この傾斜面部33に、図2に示すように、鉛直下方に凹む収納凹部35が左前フェン

ダ部 31 を含む樹脂製のフロントカバー 22 の成形時に一体成形されている。

【0027】

収納凹部 35 は、底面部 36 が水平に対し若干後部が下側に位置するように傾斜しており、前後方向に長く左側前部に面取りが形成された略長形状をなしている。そして、底面部 36 の周縁部の全周から鉛直上方に立ち上がって側壁部 37 が形成されている。なお、図 3 に示すように、底面部 36 の後部位置には下方に凹む水抜き凹部 38 が形成されており、この水抜き凹部 39 の底部には上下に貫通する貫通孔 39 が形成され、この貫通孔 39 が着脱自在の栓部材 40 で閉塞されている。この水抜き凹部 38 および栓部材 40 は例えば収納凹部 35 の水洗い時に栓部材 40 を取り外すことで貫通孔 39 から水を抜くように設けられている。

【0028】

収納凹部 35 の上部の開口部 41 の周囲には、収納凹部 35 よりも浅く左前フェンダ部 31 の傾斜面部 33 から傾斜面部 33 の湾曲に合わせて湾曲しつつ下方に凹む周囲凹部 44 が全周にわたって形成されている。つまり二段の凹部 35、44 が形成されている。この周囲凹部 44 もその底面部 45 の平面視の形状が収納凹部 35 と同様に前後方向に長く左側前部に面取りが形成された略長形状をなしており、底面部 45 の周縁部の全周から鉛直上方に立ち上がって側壁部 46 が形成されていて、この側壁部 46 が左前フェンダ部 31 の傾斜面部 33 に接続されている。この周囲凹部 44 の収納凹部 35 側の境界縁部全周には鉛直上方に突出する隔壁部 49 が形成されている。この隔壁部 49 は、収納凹部 35 の側壁部 37 の上側において側壁部 37 と連続して形成されており、左前フェンダ部 31 の傾斜面部 33 よりも下側の範囲で突出している。

【0029】

周囲凹部 44 の後部つまり下部位置には、左右二カ所に貫通穴 50、51 が上下方向に貫通形成されている。一方具体的には左側の貫通穴 50 は前後方向に長い四角長穴形状をなしている。他方具体的には右側の貫通穴 51 は同様の長穴の下部から一方の貫通穴 50 の方向に一部拡張する形状をなしている。

【0030】

また、周囲凹部 44 の収納凹部 35 よりも前側には、周囲凹部 44 よりも若干下方に凹む逃げ凹部 52 が形成されており、この逃げ凹部 52 の底部には、図 2 に示すように、挿入孔 53 とその両側の取付孔 54 とが上下方向に貫通形成されている。逃げ凹部 52 の裏側には取付孔 54 を介して表側から挿入された図 3 に示すネジ 55 によって図 4 に示す係合保持部 56 が取り付けられている。以上のような周囲凹部 44 も勿論フロントカバー 22 の成形時に一体成形されている。

【0031】

左前フェンダ部 31 の傾斜面部 33 の裏面側にはそれぞれ揺動支持部 58、59 が各貫通穴 50、51 の後方に近接して形成されている。一方具体的には左側の揺動支持部 58 は、傾斜面部 33 から下方に延出する左右一対の支持片部 60、61 を有しており、一方具体的には左側の支持片部 60 には左右方向に貫通する支持孔 62 が形成され、他方具体的には右側の支持片部 61 には、左右方向に貫通するとともに下方にも抜ける形状の支持溝 63 が形成されている。他方具体的には右側の揺動支持部 59 は、傾斜面部 33 から下方に延出する左右一対の支持片部 64、65 を有しており、一方具体的には左側の支持片部 64 には、左右方向に貫通するとともに下方にも抜ける形状の支持溝 67 が形成され、他方具体的には右側の支持片部 65 には左右方向に貫通する図示略の支持孔が形成されている。収納凹部 35 から離間して設けられたこれらの揺動支持部 58、59 もフロントカバー 22 の成形時に一体成形されている。

【0032】

そして、図 2 および図 3 に示すように左前フェンダ部 31 の傾斜面部 33 に下方に凹むように形成された収納凹部 35 の上部の開口部 41 を開閉するリッド 70 が左前フェンダ部 31 に揺動可能に連結されている。このリッド 70 は、周囲凹部 44 の内側に収まって収納凹部 35 を閉じるため周囲凹部 44 と同様に湾曲する板状のリッド本体部 71 を有し

ており、このリッド本体部 71 は周囲凹部 44 の側壁部 46 より一回り小さい形状をなしている。つまり、リッド本体部 71 は、周囲凹部 44 に嵌め込まれた状態で平面視の形状が周囲凹部 44 と同様に前後方向に長く左側前部に面取りが形成された略長方形形状をなす上面部 72 と、上面部 72 の周縁部全周から周囲凹部 44 側に若干突出する突出壁部 73 とを有している。

【0033】

リッド 70 は、上面部 72 の裏面から延出し周囲凹部 44 に形成された貫通穴 50、51 を通過して傾斜面部 33 の裏面側の揺動支持部 58、59 に回動可能に連結される左右一对の J の字形状の連結アーム部 75、76 を有している。図 4 に示すように左側の連結アーム部 75 は、延出先端部に左右方向に突出する軸部 77 を有しておりこの軸部 77 を左側の揺動支持部 58 の支持孔 62 および支持溝 63 に嵌合させることになり、右側の連結アーム部 76 も、延出先端部に左右方向に突出する軸部 78 を有しておりこの軸部 78 を右側の揺動支持部 59 の図示略の支持孔および支持溝 67 に嵌合させることになる。

【0034】

そして、上記のように連結アーム部 75、76 で左前フェンダ部 31 に支持されたリッド 70 は、図 5 に示すようにリッド本体部 71 を周囲凹部 44 内に嵌め入れて収納凹部 35 を閉じる閉状態と、図 2～図 4 に示すようにリッド本体部 71 を上側で旋回させ収納凹部 35 よりも後方側に離間した位置で収納凹部 35 の開口部 41 に対して鈍角をなすように開かせる開状態との間で揺動する。ここで、リッド 70 は、上記閉状態においては、上面部 72 が左前フェンダ部 31 の傾斜面部 33 と面一となる。また、リッド 70 は、上記開状態においては、例えばリッド本体部 71 が左前フェンダ部 31 の傾斜面部 33 に当接することで開方向の揺動が限界位置となる。

【0035】

ここで、リッド本体部 71 の上面部 72 の先端側には周囲凹部 44 の方向に凹む凹部 80 が形成されており、この凹部 80 には、開閉係合体 81 が設けられている。図 6 に示すように、この開閉係合体 81 は、D の字状のリング部材 82 とこのリング部材 82 に一端側の大径の頭部 84a において連結されるスタッド部材 84 とを有しており、スタッド部材 84 に凹部 80 の裏側でワッシャ 85 が係止されることでワッシャ 85 とスタッド部材 84 の頭部 84a とでリッド本体部 71 に回転可能に取り付けられている。なお、リッド 70 が上記した閉状態にあるとき、スタッド部材 84 が周囲凹部 44 の挿入孔 53 を通って下側の係合保持部 56 に保持される。

【0036】

具体的に、係合保持部 56 は、図 4 にも示すように左前フェンダ部 31 にネジ 55 で取り付けられる取付部 88 と、取付部 88 から屈曲しリッド本体部 71 から離間して延出する保持片部 86 と、この保持片部 86 の変形を規制可能な規制片部 87 とを有するバネ材からなっている。取付部 88 および保持片部 86 には、スタッド部材 84 を挿入可能な図 6 に示す挿入孔 100 および挿入孔 101 が形成されており、保持片部 86 の挿入孔 101 には径方向内方に突出する複数の突起部 102 が形成されている。これに合わせてスタッド部材 84 の外周面には、円周方向にずれるほど軸線方向先端側に位置するように傾斜する複数の傾斜溝 103 が形成されている。また、図示は略すがスタッド部材 84 の先端は傾斜溝 103 が先端から最も離れる位置における厚さが最も厚くされている。

【0037】

そして、スタッド部材 84 は、挿入孔 53、100、101 に挿入される際に厚さの薄い側で挿入孔 53 の突起部 102 間に挿入され、90 度回転させられると、突起部 102 間の厚さが厚くなることで傾斜溝 103 内に突起部 102 を係合させるとともに傾斜溝 103 の傾斜によって突起部 102 を取付部 88 側に引き寄せ保持片部 86 を取付部 88 側に弾性変形させる（図 6 に示す状態）。この弾性変形によりスタッド部材 84 つまりリッド本体 71 には、左前フェンダ部 31 に密着する方向に付勢力が生じる。この状態でリッド 70 は上記した閉状態となる。

【0038】

リング部材 82 は図示は略すがスタッド部材 84 への取り付け位置を両側でオフセットさせることにより倒れた状態を自らの弾性力で維持するようになっており、この状態で凹部 80 内に収まる。そして、リング部材 82 が立ち上げられ上記とは逆に 90 度回転させられることによって、スタッド部材 84 は、傾斜溝 103 内から突起部 102 を脱出させて保持片部 86 との係合を解除し、さらにリング部材 82 が引かれると、挿入孔 53, 100, 101 から抜ける。このようにして、リッド 70 が収納凹部 35 を開放させる方向に揺動可能となる。

【0039】

また、図 3 に示すように、リッド本体部 71 の裏面には、リッド 70 が上記閉状態にあるとき周囲凹部 44 の隔壁部 49 に全周にわたって当接する弾性材料からなる環状のシール部材 89 が貼付されている。ここで、リッド 70 が閉状態にあるとき隔壁部 49 の高さによってシール部材 89 が弾性変形し隔壁部 49 に全周にわたり密着することになる。また、このとき、収納凹部 35 に対しシール部材 89 の外側となる周囲凹部 44 に貫通穴 50, 51 が配置されている。

【0040】

図 4 に示すように、リッド 70 の右側の連結アーム部 76 の軸部 78 には、回動付勢スプリング（スプリング）91 がそのコイル部 92 に軸部 78 を挿入させるようにして設けられている。この回動付勢スプリング 91 は、一端側の半径方向外側に延びる係止腕部 93 が左前フェンダ部 31 の傾斜面部 33 の裏面側の係止部 94 に係止され、他端側の半径方向外側に延びる係止腕部 95 が連結アーム部 76 の係止片部 96 に係止されていて、リッド 70 を収納凹部 35 を開く開方向に付勢する。

【0041】

以上に述べた第 1 実施形態の鞍乗り型車両 11 の収納部構造によれば、左前フェンダ部 31 の傾斜面部 33 に下方に凹む収納凹部 35 を設けるとともに、この収納凹部 35 の開口部 41 を開閉するリッド 70 を揺動可能に設けたため、左前フェンダ部 31 の外表面からの出っ張りを防止できる。したがって、外観性を向上させることができる。また、左前フェンダ部 31 の傾斜面部 33 に下方に凹む収納凹部 35 を設けたので、出っ張りを防止した上で収納スペースを広くでき開口部 41 も広くできる。したがって、十分な収納量を確保でき、収納作業性を向上させることができる。

【0042】

さらに、左前フェンダ部 31 の傾斜面部 33 に下方に凹む収納凹部 35 を形成していることから、収納作業性を向上させるためにこの収納凹部 35 の開口部 41 を開閉するリッド 70 を上記のように収納凹部 35 から離間するように大きく開くようにしても収納凹部 35 から収納物が落下することがない。したがって、収納物を落下させることなく、収納物の出し入れ性つまり収納作業性を向上させることができる。しかも、収納凹部 35 が傾斜面部 33 に形成されていることから、収納凹部 35 の水平方向の断面積よりも開口部 41 の開口面積の方が大きくなり、その結果、収納作業性をさらに向上させることができる。

【0043】

また、収納凹部 35 が左前フェンダ部 31 を含むフロントカバー 22 に一体成形されているため、部品点数増を抑制することができるとともに、コスト増も抑制できる。

【0044】

さらに、収納凹部 35 の周囲にこの収納凹部 35 よりも浅い周囲凹部 44 が全周にわたって形成されているため、この周囲凹部 44 に閉状態のリッド 70 を嵌め込むことができ、左前フェンダ部 31 と閉状態のリッド 70 とを面一にすることができる。したがって、外観が良好になる。しかも、リッド 70 が閉状態では裏面に設けられたシール部材 89 が周囲凹部 44 に全周にわたって当接するため、収納凹部 35 内に雨水等が入り込むことを防止することができる。したがって、収納凹部 35 の確実な防水性を確保することができる。その上、閉状態のリッド 70 をシール部材 89 で開方向に付勢することができるため、閉状態のリッド 70 の遊びによるがたつきを規制することができる。したがって、走行

中にリッドががたついて異音が生じることを防止できる。

【0045】

加えて、周囲凹部44の収納凹部35側の境界縁部全周において上側に隔壁部49が突出するため、収納凹部35内に雨水等が入り込むことを隔壁部49によって確実に防止することができる。したがって、収納凹部35の確実な防水性を確保することができる。また、上記のようにこの隔壁部49に閉状態のリッド70のシール部材89を当接させれば、シール部材89を大きく変形させることができ、その結果、シール部材89を隔壁部49に密着させてシール性を高めることができる。したがって、この点からも収納凹部35の確実な防水性を確保することができる。さらに、閉状態のリッド70の突出壁部73と周囲凹部44の側壁部46とが上下方向に重なり合うことになり、この点からも収納凹部35の確実な防水性を確保することができる。また、隔壁部49に閉状態のリッド70のシール部材89を当接させ、シール部材89を大きく変形させることで、シール部材89でリッド70を開方向に強く付勢することができるため、閉状態のリッド70の遊びによるがたつきを確実に規制することができる。したがって、走行中にリッド70ががたついて異音が生じることを確実に防止できる。

【0046】

さらに、リッド70を大きく揺動させ収納凹部35を大きく開口させるためにリッド70の連結アーム部75、76を収納凹部35よりも外側の周囲凹部44に形成された貫通穴50、51を介して左前フェンダ部31の裏面側の揺動支持部58、59に支持することになるが、これらの貫通穴50、51を周囲凹部44の下部位置に形成することで周囲凹部44に進入した雨水をシール部材89の外側の周囲凹部44で案内し良好に貫通穴50、51から排出させることができる。したがって、周囲凹部44に雨水が溜まるのを防止できる。

【0047】

加えて、リッド70の裏面側に設けられたシール部材89の付勢力に加えて揺動支持部59の回動付勢スプリング91の付勢力で、閉状態のリッド70を開方向に付勢するため、閉状態のリッド70の遊びによるがたつきを確実に規制することができる。したがって、走行中にリッド70ががたついて異音が生じることを防止できる。しかも、回動付勢スプリング91の付勢力でリッド70の開作動を助勢するため、円滑な開作動が可能である。

【0048】

さらに、左前フェンダ部31に収納凹部35が設けられているため、例えば停車中に乗員が跨った状態で右手のブレーキレバーを握った状態のまま左手だけで無理なく良好にリッド70を開閉して収納物を出し入れすることができる。なお、勿論、左前フェンダ部31に限らず、必要に応じて、右前フェンダ部、さらにはリヤフェンダに設けることも可能である。

【0049】

次に、本発明の第2実施形態の鞍乗り型車両の収納部構造を図7～図15を参照して第1実施形態との相違部分を中心に以下に説明する。

【0050】

第1実施形態においては、フロントカバー22に収納凹部35が一体成形されているが、第2実施形態では、収納凹部35がフロントカバー22とは別体とされている点が主な相違点である。

【0051】

第2実施形態において、図7に示すように、フロントカバー22の左前フェンダ部31の傾斜面部33には、上下方向に貫通する挿入穴111が形成されている。挿入穴111は前後方向に長く左側前部に面取りが形成された略長形状をなしている。挿入穴111の前側および左右両側には、左前フェンダ部31の傾斜面部33から傾斜面部33の湾曲に合わせて湾曲しつつ下方に凹む外側凹部112と、この外側凹部112の内側で外側凹部112よりもさらに凹む内側凹部113とが形成されている。また、挿入穴111の後

部には、内側凹部 113 よりもさらに深く凹む後側凹部 114 が形成されていて、これら外側凹部 112、内側凹部 113 および後側凹部 114 で挿入穴 111 の全周が囲まれている。ここで、後側凹部 114 の左右両側部には、取付穴 115 が形成された取付台座 116 がそれぞれ立設されており、内側凹部 113 の前部にも取付穴 115 が形成されている。内側凹部 113 の前部には第 1 実施形態と同様の取付孔 54 が設けられこれらの間にスリット 53B が形成されている。

【0052】

そして、収納凹部 35 がフロントカバー 22 とは別体とされた収納凹体 118 に形成されており、この収納凹体 118 が、上記した挿入穴 111 に挿入され内側凹部 113 に載置される。収納凹体 118 は、収納凹部 35 と、この収納凹部 35 の開口部 41 側の周縁部から側方に突出するフランジ部 120 とを有しており、図 7 に取付前の状態を示し図 8 に取付後の状態を示すように、収納凹部 35 が挿入穴 111 に挿入されフランジ部 120 で内側凹部 113 および取付台座 116 に載置される。なお、収納凹部 35 は挿入穴 111 に合わせて前後方向に長く左側前部に面取りが形成された略長形状をなしている。フランジ部 120 には後側の両側部に取付穴 121 が形成されており、前部にも取付穴 121 が形成されていて、これら取付穴 121 に挿入された樹脂クリップ 122 が取付穴 115 に嵌合することで収納凹体 118 つまり収納凹部 35 が左前フェンダ部 31 に取り付けられる。

【0053】

収納凹体 118 の上面には、収納凹部 35 側の内周縁部に、若干上側に突出する第 1 実施形態と同様の隔壁部 49 が全周にわたって形成されており、この隔壁部 49 の外側であって取付穴 121 よりも収納凹部 35 側にも、若干上側に突出する隔壁部 125 が形成されている。これにより、これら隔壁部 49 と隔壁部 125 との間に、収納凹部 35 を全周にわたって囲むように若干下方に凹む周囲凹部 44 が形成されている。ここで、内側の隔壁部 49 は周囲凹部 44 の収納凹部 35 側の境界縁部全周に上側に突出するように形成されている。また、周囲凹部 44 は収納凹部 35 よりも浅く、平面視の形状が収納凹部 35 と同様に前後方向に長く左側前部に面取りが形成された略長形状をなしている。

【0054】

フランジ部 120 の周囲凹部 44 よりも前側には、フロントカバー 22 の取付孔 54 に連通する取付孔 54A が形成されており、これらの間に挿入孔 53A が形成されている。フランジ部 120 の裏側には、取付孔 54A および取付孔 54 に挿通される図 9 に示すネジ 55 によって図 10～図 12 に示す第 1 実施形態と同様の係合保持部 56 が取り付けられている。なお、挿入孔 53A は下方に突出するボス部 126 に形成されており、このボス部 126 がフロントカバー 22 のスリット 53B に挿入されている。

【0055】

また、収納凹体 118 のフランジ部 120 の後部は、図 7 および図 8 に示すように、左右両側に、取付穴 121 が形成されるとともに取付台座 116 に載置される取付穴形成部 127 とされ、これら取付穴形成部 127 の間位置に、これら取付穴形成部 127 に対し隙間をあけて取付穴形成部 127 よりも後方まで延出する支持部 128 が形成されている。この支持部 128 の後端部の左右両側部には、左右方向外側に突出するように支持軸 129 が形成されている。

以上の収納凹体 118 は樹脂で一体成形されている。

【0056】

上記のように左前フェンダ部 31 に収納凹体 118 が取り付けられることで、左前フェンダ部 31 の傾斜面部 33 に下方に凹むように収納凹部 35 が設けられることになる。そして、この収納凹部 35 の上部の開口部 41 を開閉するリッド 70 が左前フェンダ部 31 に揺動可能に連結されることになる。

【0057】

リッド 70 には、図 13 に示すように、リッド本体部 71 の上面部 72 の裏面から若干突出するように二カ所のリッド連結部 131 が形成されており、各リッド連結部 131 に

は、互いに同軸をなす連結穴 132 がそれぞれ形成されている。そして、図 9 に示すように、これらリッド連結部 131 の間に収納凹体 118 の支持部 128 を配置した状態で、図 10、図 11、図 14 に示すように連結穴 132 に支持軸 129 を嵌合させることで、リッド 70 は、支持軸 129 を中心に揺動可能となるように収納凹体 118 つまりこれを取り付けられた左前フェンダ部 31 に支持される。

【0058】

そして、上記のようにリッド連結部 131 で左前フェンダ部 31 の収納凹体 118 に支持されたリッド 70 は、図 11 および図 15 に示すように外側凹部 112 内に入り込んで収納凹部 35 を閉じる閉状態と、図 9 および図 10 に示すように上側で揺動して収納凹部 35 よりも後方側に開く開状態との間で揺動する。

【0059】

ここで、第 1 実施形態と同様、リッド本体部 71 の上面部 72 の先端側には、図 11、図 12 に示すように、係合保持部 56 に係合する第 1 実施形態と同様の開閉係合体 81 が設けられている。

【0060】

また、リッド本体部 71 の裏面には、環状をなして突出する支持壁部 134 とこの支持壁部 134 の内側で環状をなして突出する支持壁部 135 とが形成されており、これら支持壁部 134、135 の間に環状のシール部材 136 が嵌合されている。このシール部材 136 には内周縁部から外側に広がりつつリッド本体部 71 の裏面から離れる方向に突出するシール舌部 137 が全周にわたって形成されており、リッド 70 が上記閉状態にあるときシール部材 136 がシール舌部 137 において周囲凹部 44 に全周にわたって当接して、収納凹部 35 を外部に対しシールする。

【0061】

以上に述べた第 2 実施形態の鞍乗り型車両 11 の収納部構造によれば、第 1 実施形態と同様の効果を奏することができる。また、左前フェンダ部 31 とは別体とされた収納凹部 35 を有する収納凹体 118 にリッド 70 を軸支する支持部 128 が備えられているため、左前フェンダ部 31 側にリッド 70 を軸支する場合に比してコンパクトにできる。また、収納凹部 35 と支持部 128 との位置が出しやすい。

【図面の簡単な説明】

【0062】

【図 1】本発明の第 1 実施形態の鞍乗り型車両の収納部構造が適用された鞍乗り型車両を示す斜視図である。

【図 2】本発明の第 1 実施形態の鞍乗り型車両の収納部構造を車体左側の上側かつ後側から見た斜視図であってリッドの開状態を示すものである。

【図 3】本発明の第 1 実施形態の鞍乗り型車両の収納部構造を車体左側の上側やや前側から見た斜視図であってリッドの開状態を示すものである。

【図 4】本発明の第 1 実施形態の鞍乗り型車両の収納部構造を車体左側の下側やや前側から見た斜視図であってリッドの開状態を示すものである。

【図 5】本発明の第 1 実施形態の鞍乗り型車両の収納部構造を車体左側の上側かつ後側から見た斜視図であってリッドの閉状態を示すものである。

【図 6】本発明の第 1 実施形態の鞍乗り型車両の収納部構造におけるリッドのロック機構を示す断面図である。

【図 7】本発明の第 2 実施形態の鞍乗り型車両の収納部構造を車体左側の上側かつ後側から見たリッドを除く分解斜視図である。

【図 8】本発明の第 2 実施形態の鞍乗り型車両の収納部構造を車体左側の上側かつ後側から見たリッドを除く斜視図である。

【図 9】本発明の第 2 実施形態の鞍乗り型車両の収納部構造を車体左側の上側から見た斜視図であってリッドの開状態を示すものである。

【図 10】本発明の第 2 実施形態の鞍乗り型車両の収納部構造を示す側断面図であってリッドの開状態を示すものである。

【図 1 1】本発明の第 2 実施形態の鞍乗り型車両の収納部構造を示す側断面図であってリッドの閉状態を示すものである。

【図 1 2】本発明の第 2 実施形態の鞍乗り型車両の収納部構造における係合構造部を示す部分拡大側断面図であってリッドの閉状態を示すものである。

【図 1 3】本発明の第 2 実施形態の鞍乗り型車両の収納部構造におけるリッドを示す裏面側の斜視図である。

【図 1 4】本発明の第 2 実施形態の鞍乗り型車両の収納部構造における支持構造部を示す部分拡大側断面図であってリッドの閉状態を示すものである。

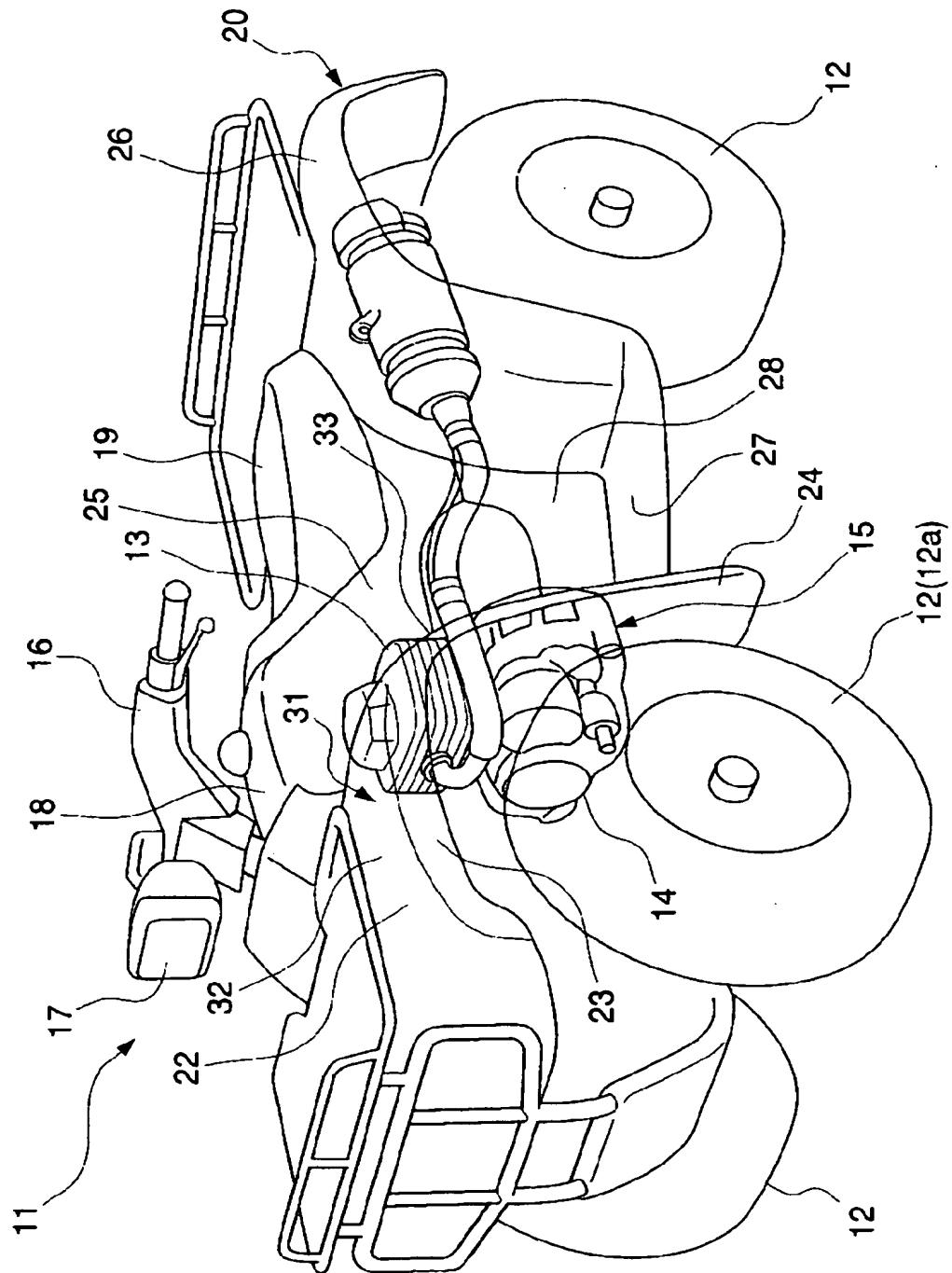
【図 1 5】本発明の第 2 実施形態の鞍乗り型車両の収納部構造を車体左側の上側かつ後側から見た斜視図であってリッドの閉状態を示すものである。

【符号の説明】

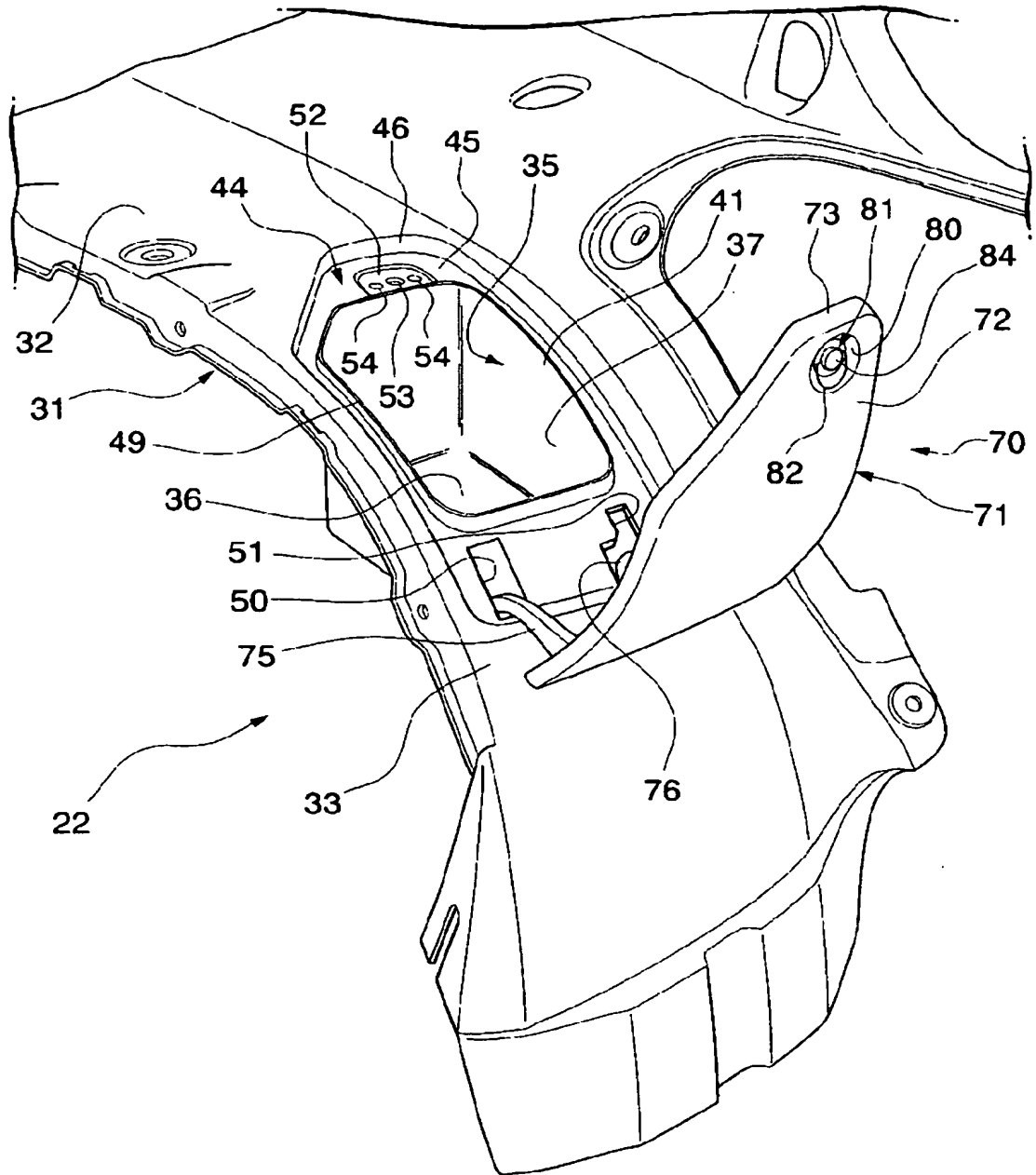
【 0 0 6 3 】

- 1 1 鞍乗り型車両
- 1 2 (1 2 a) 車輪
- 3 1 左前フェンダ部 (フェンダ)
- 3 3 傾斜面部
- 3 5 収納凹部
- 4 1 開口部
- 4 4 周囲凹部
- 4 9 隔壁部
- 5 0, 5 1 貫通穴
- 5 8, 5 9 揺動支持部
- 7 0 リッド
- 7 5, 7 6 連結アーム部
- 8 9 シール部材
- 9 1 回動付勢スプリング (スプリング)
- 1 1 8 収納凹体

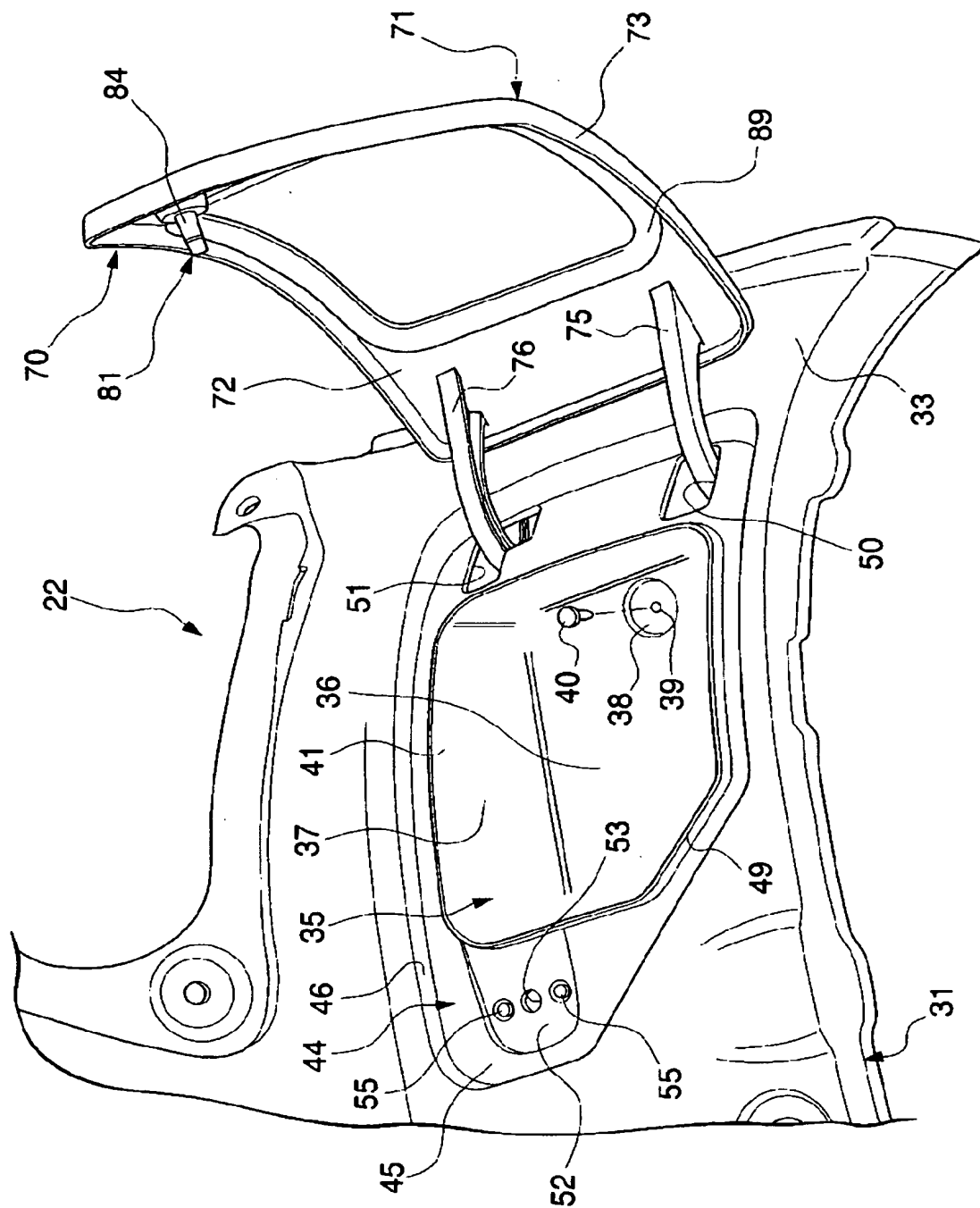
【書類名】 図面
【図 1】



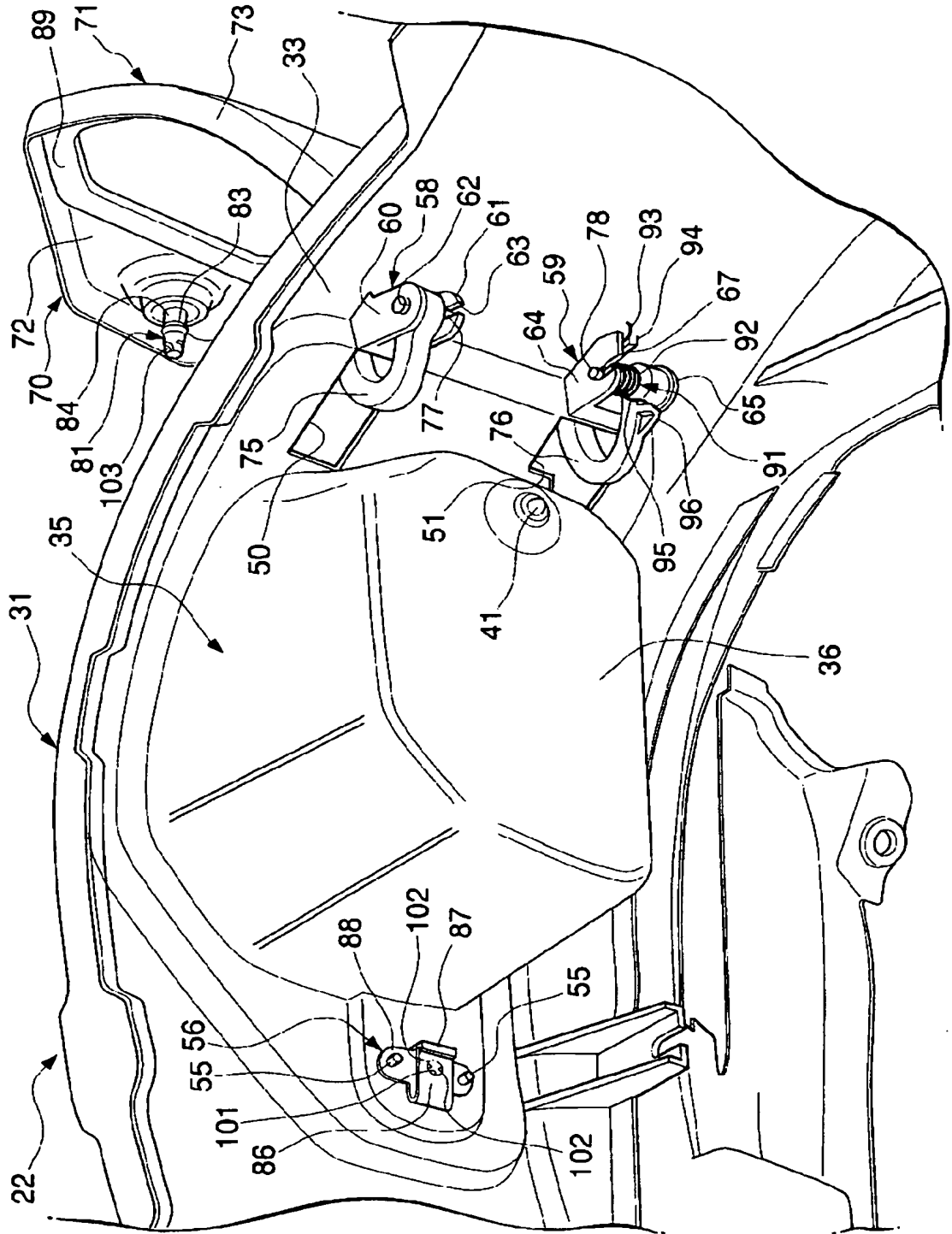
【図 2】



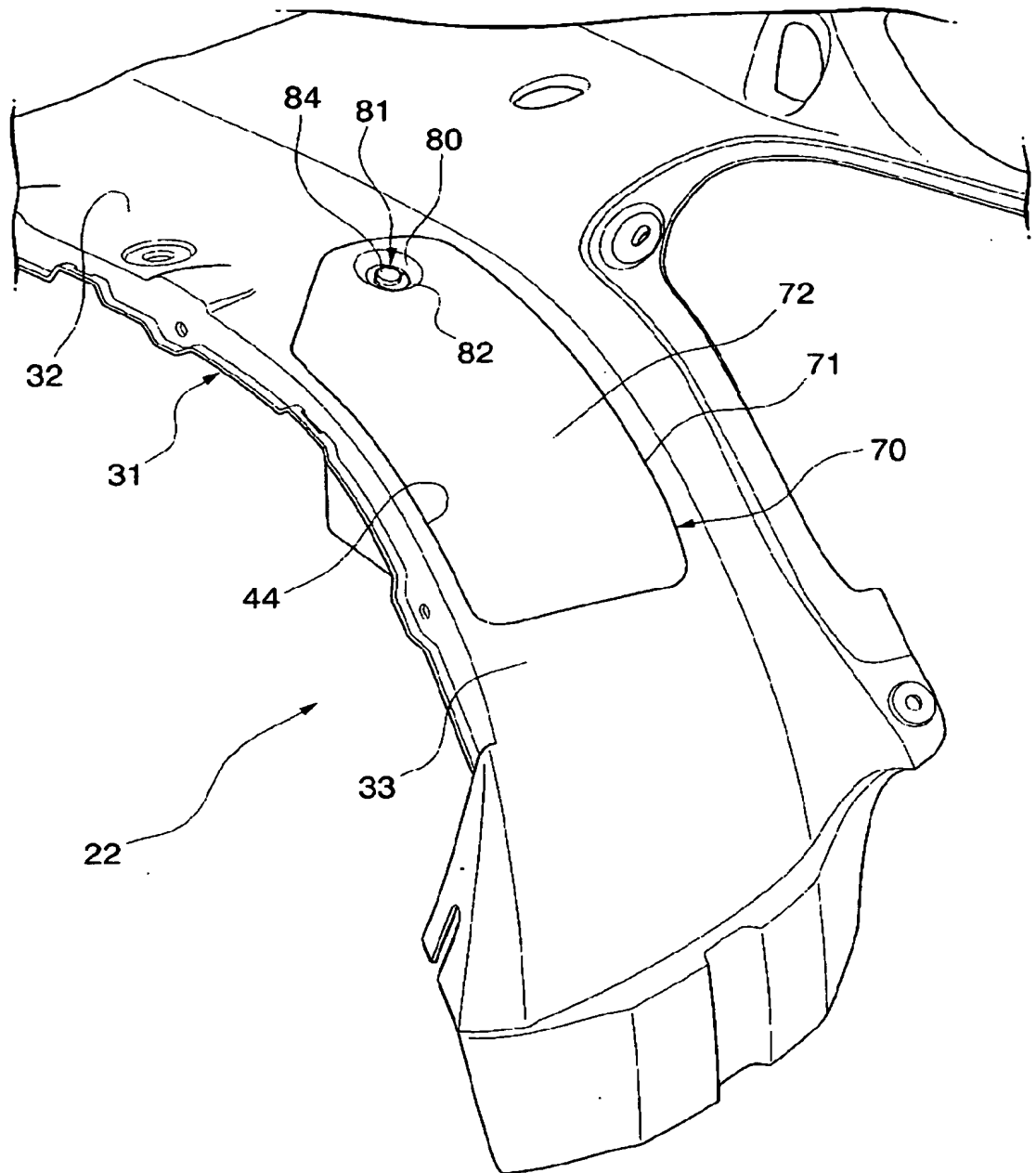
【図 3】



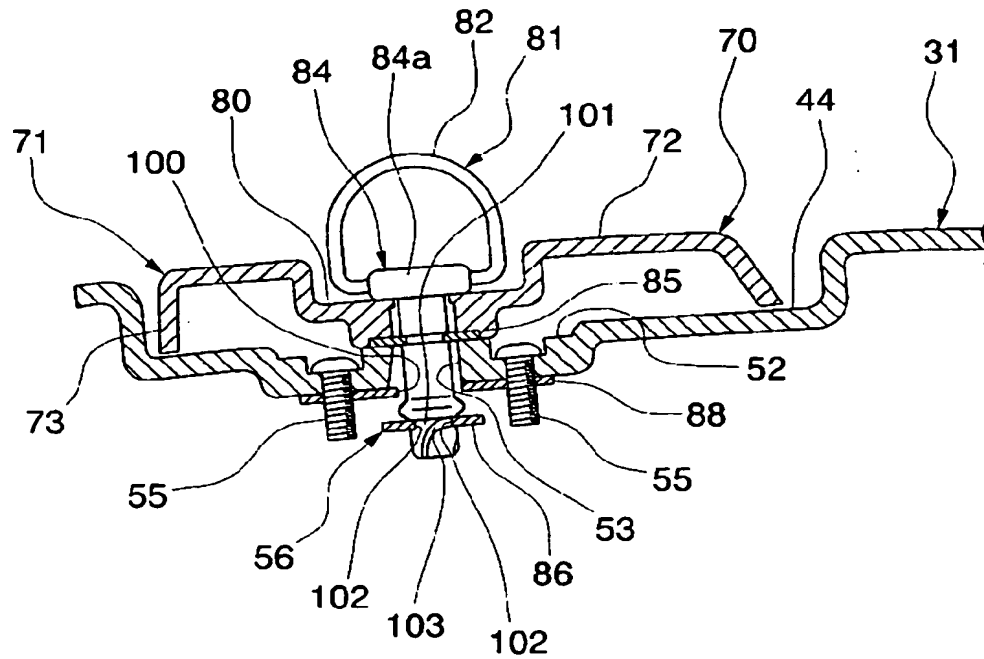
【図 4】



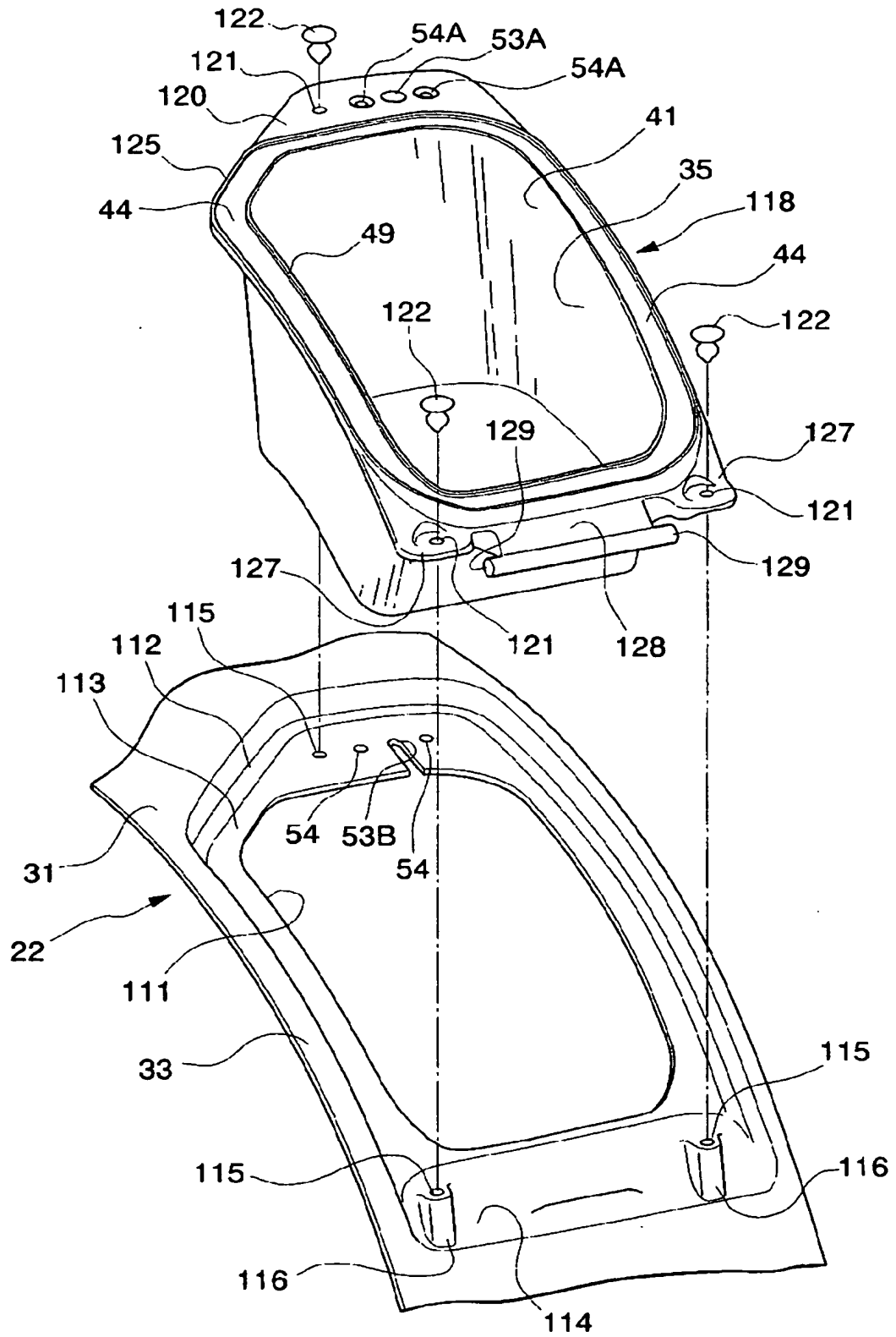
【図 5】



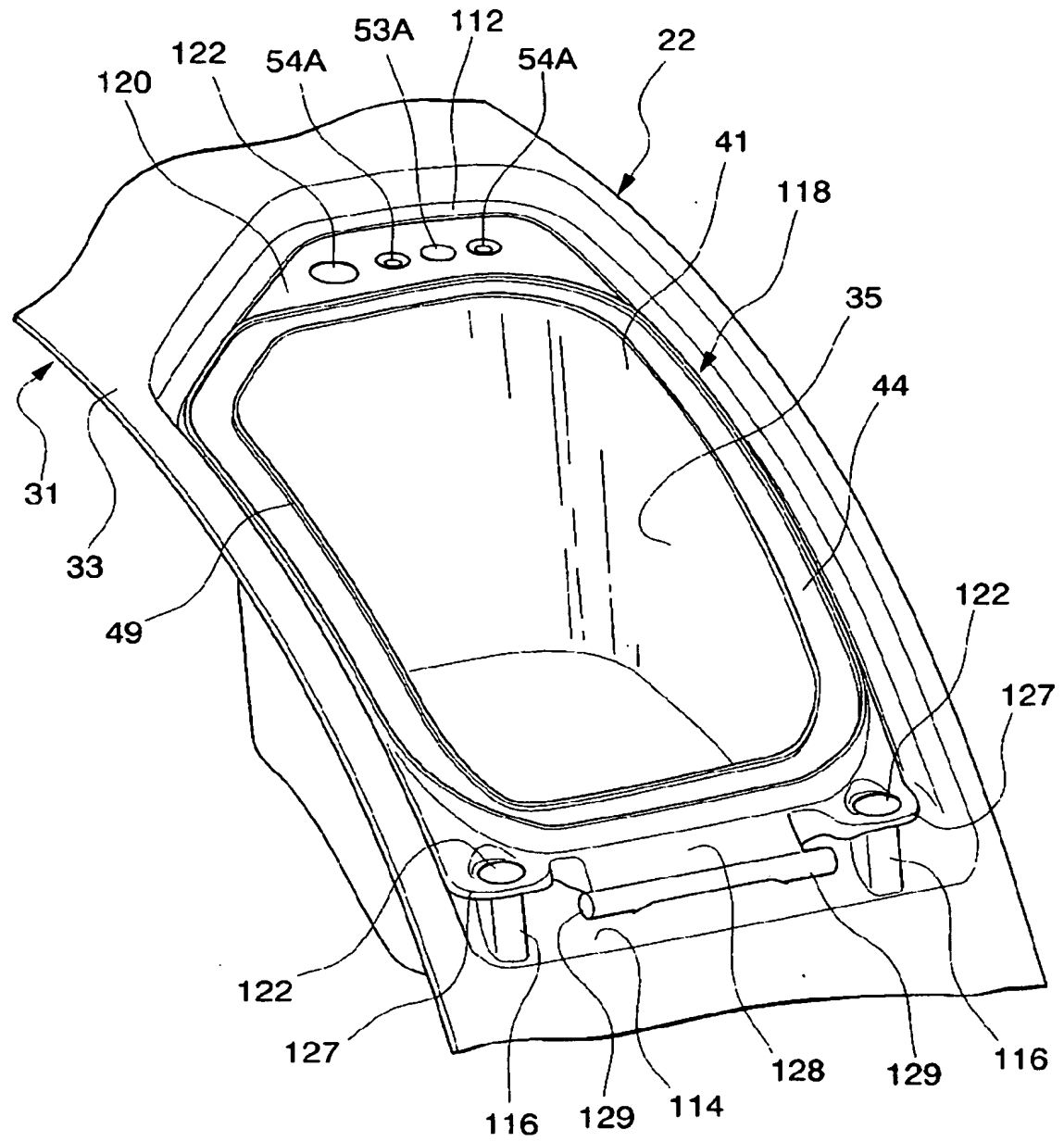
【図 6】



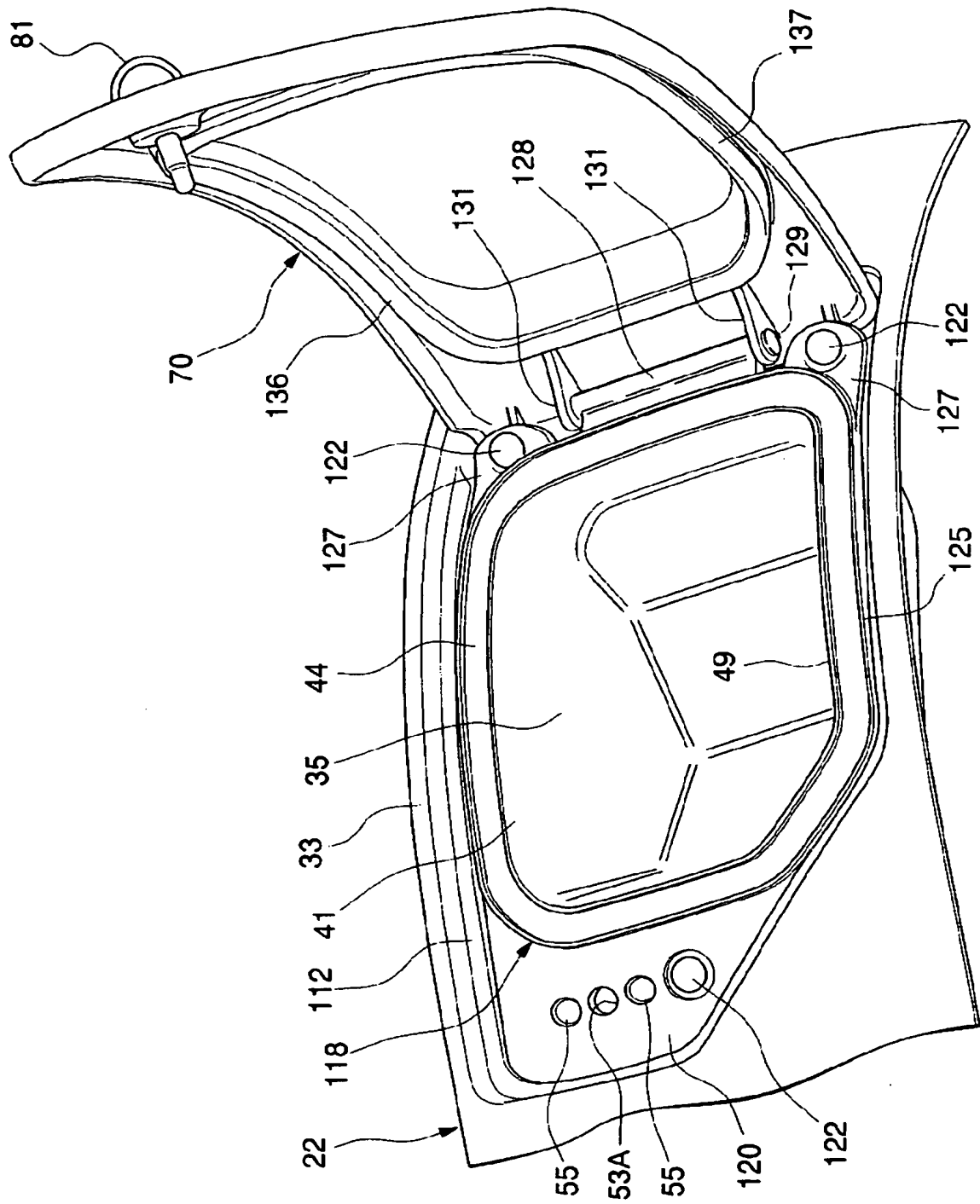
【図 7】



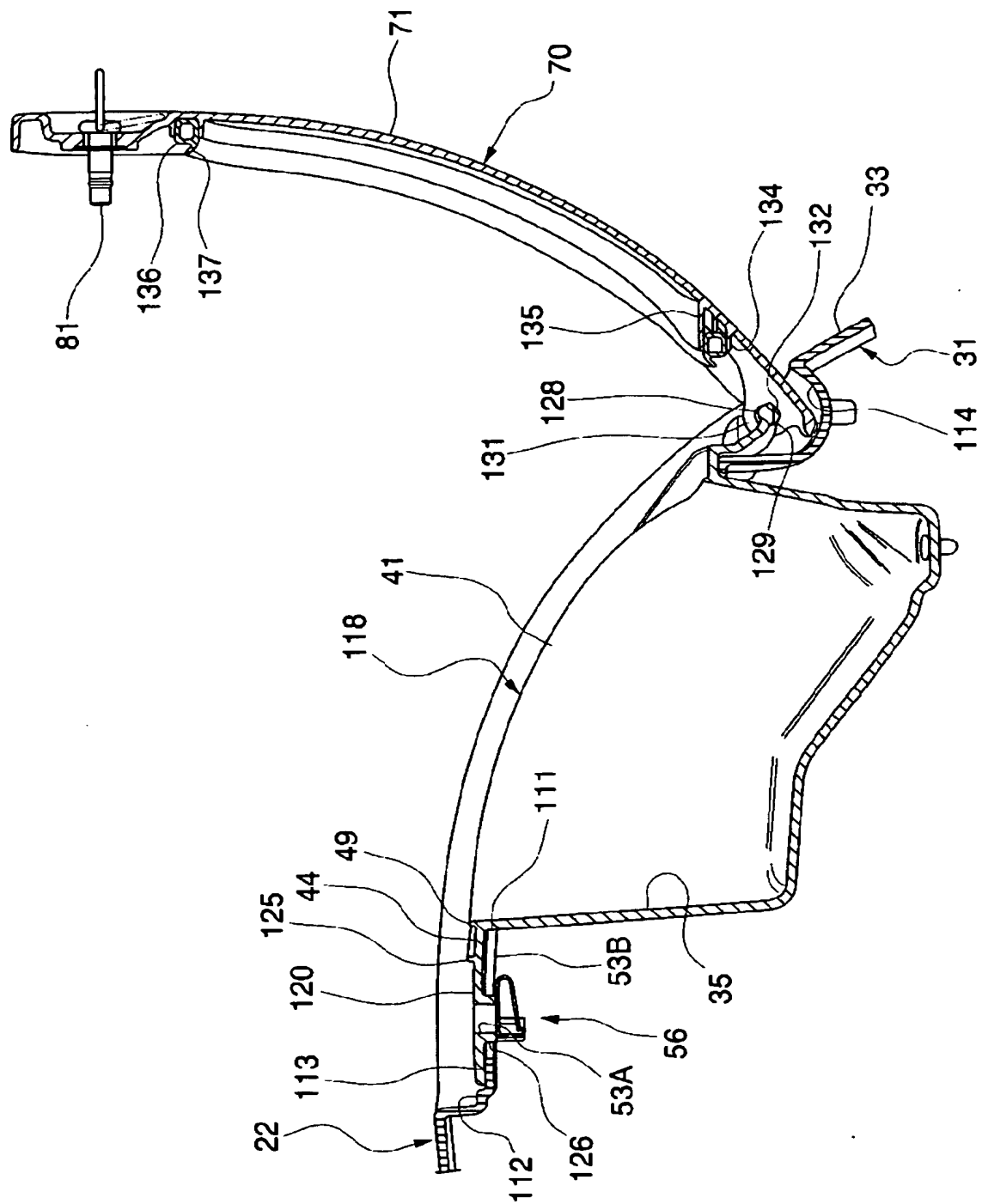
【図 8】



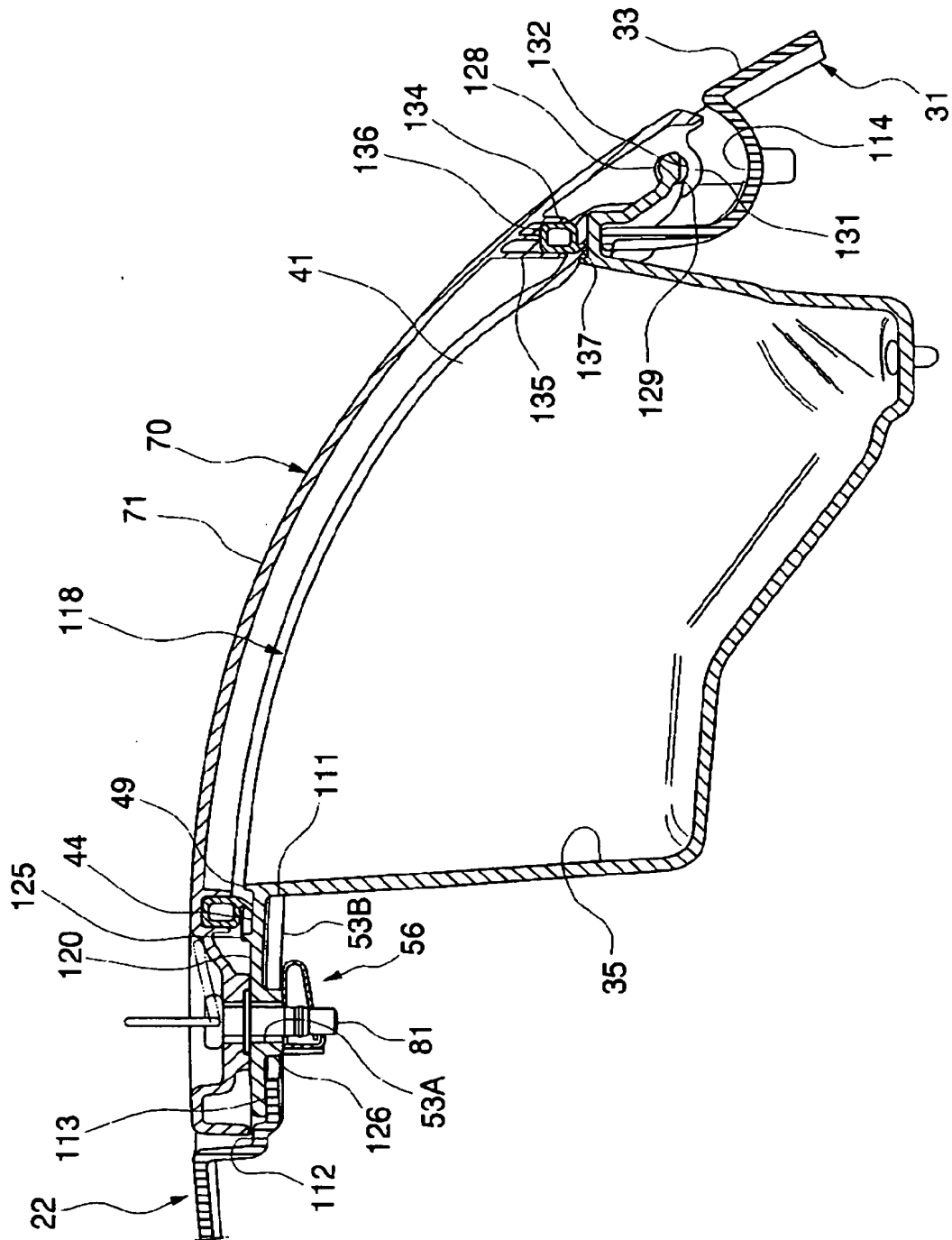
【図 9】



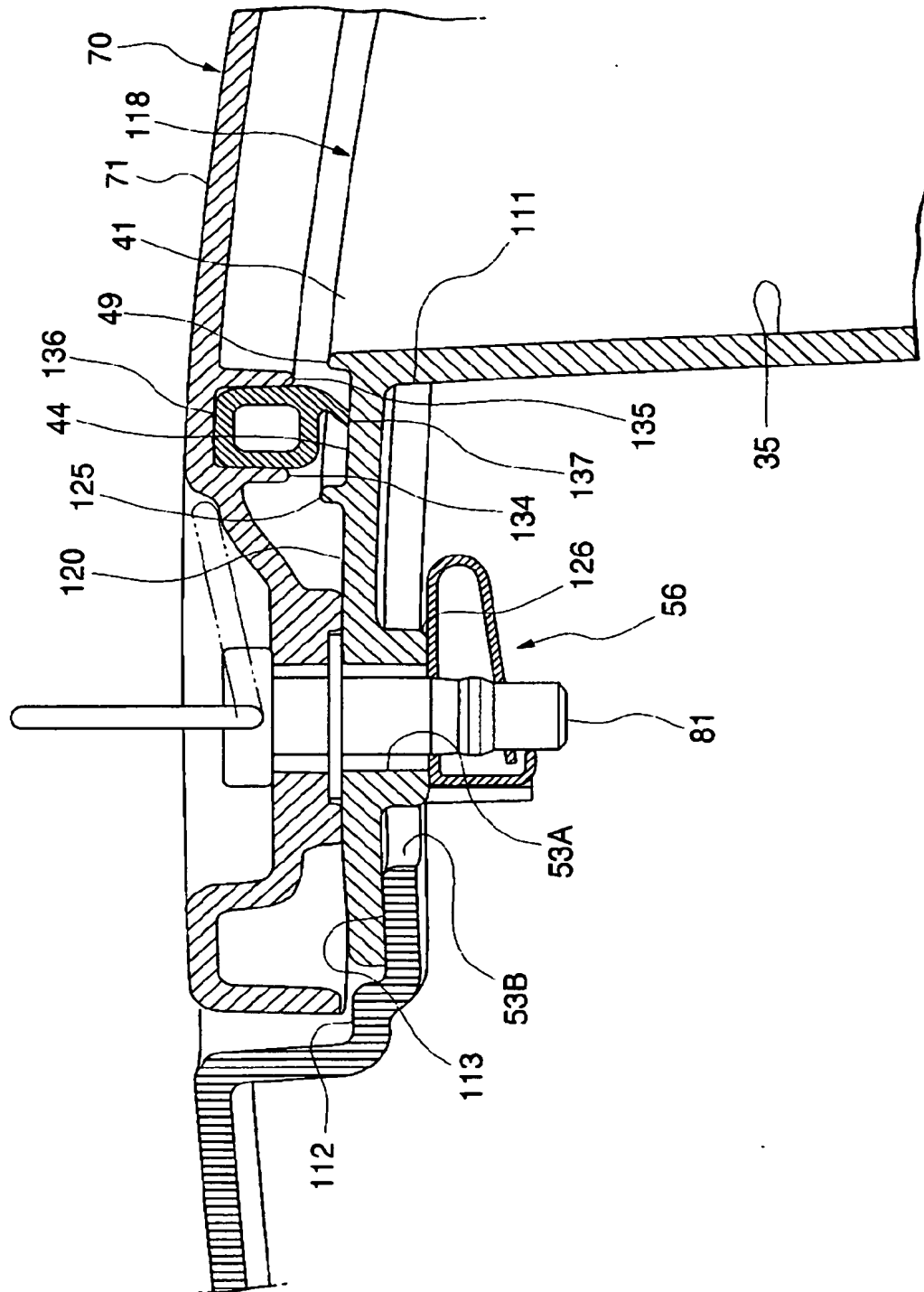
【図10】



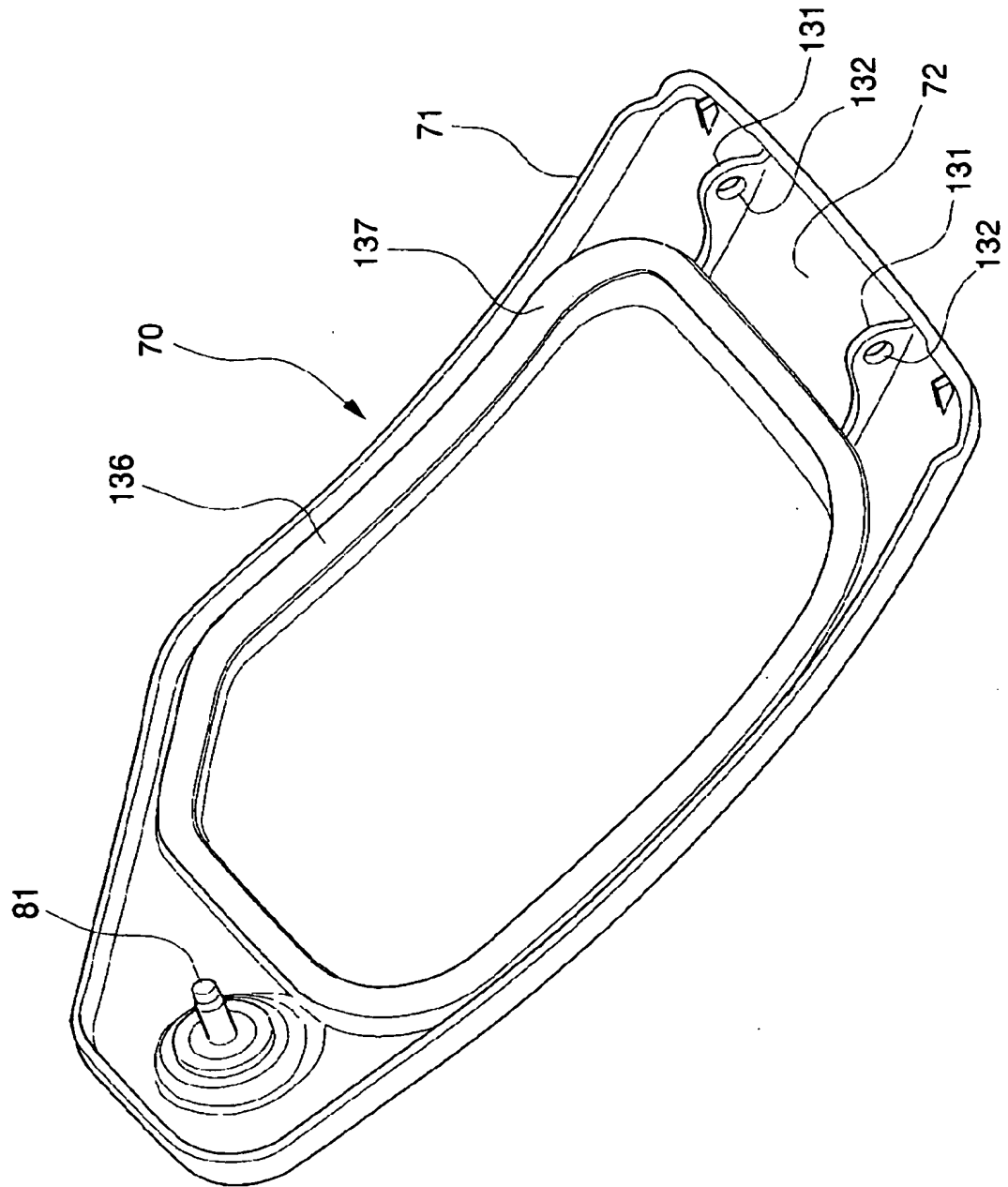
【図 11】



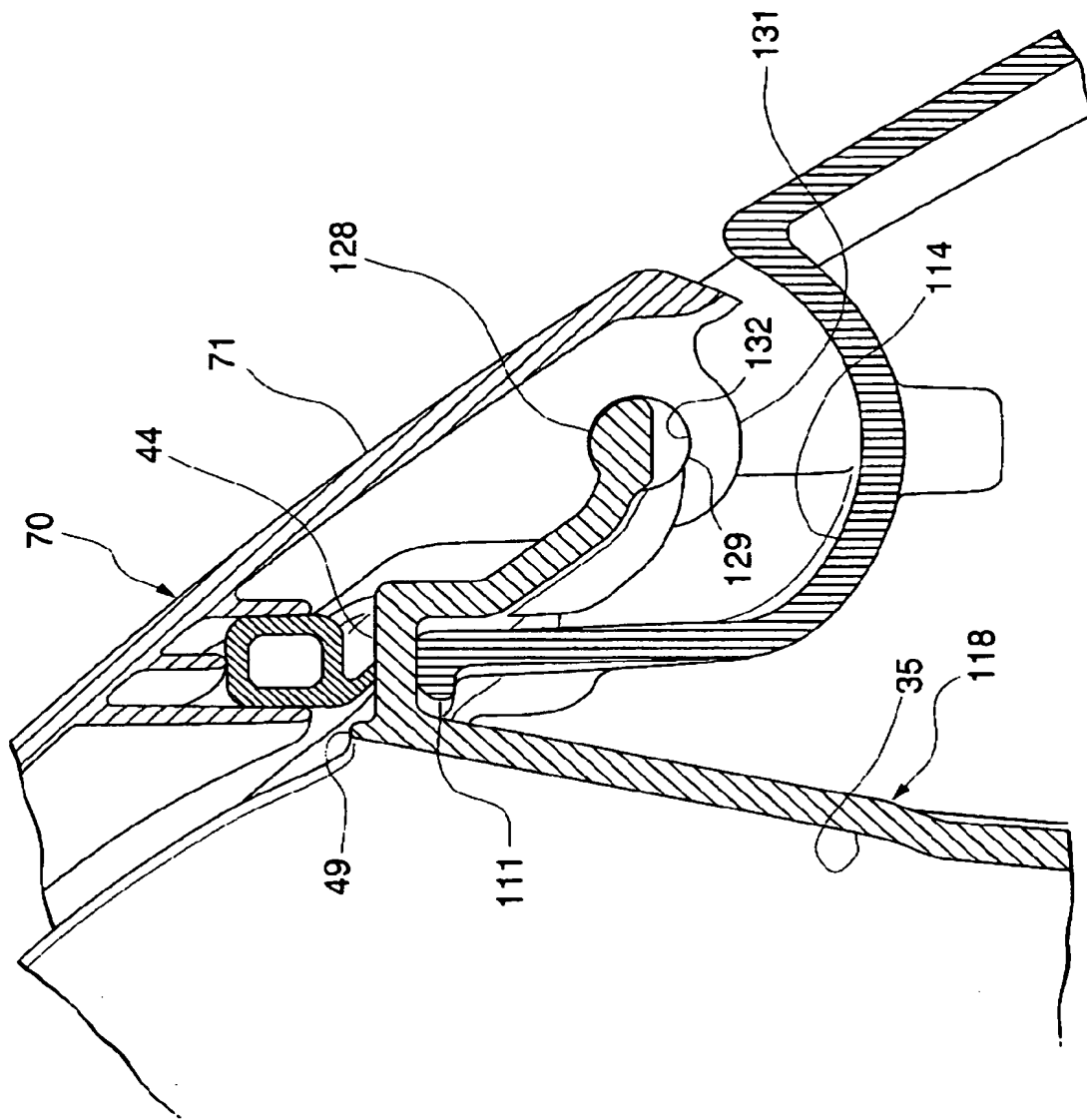
【図 12】



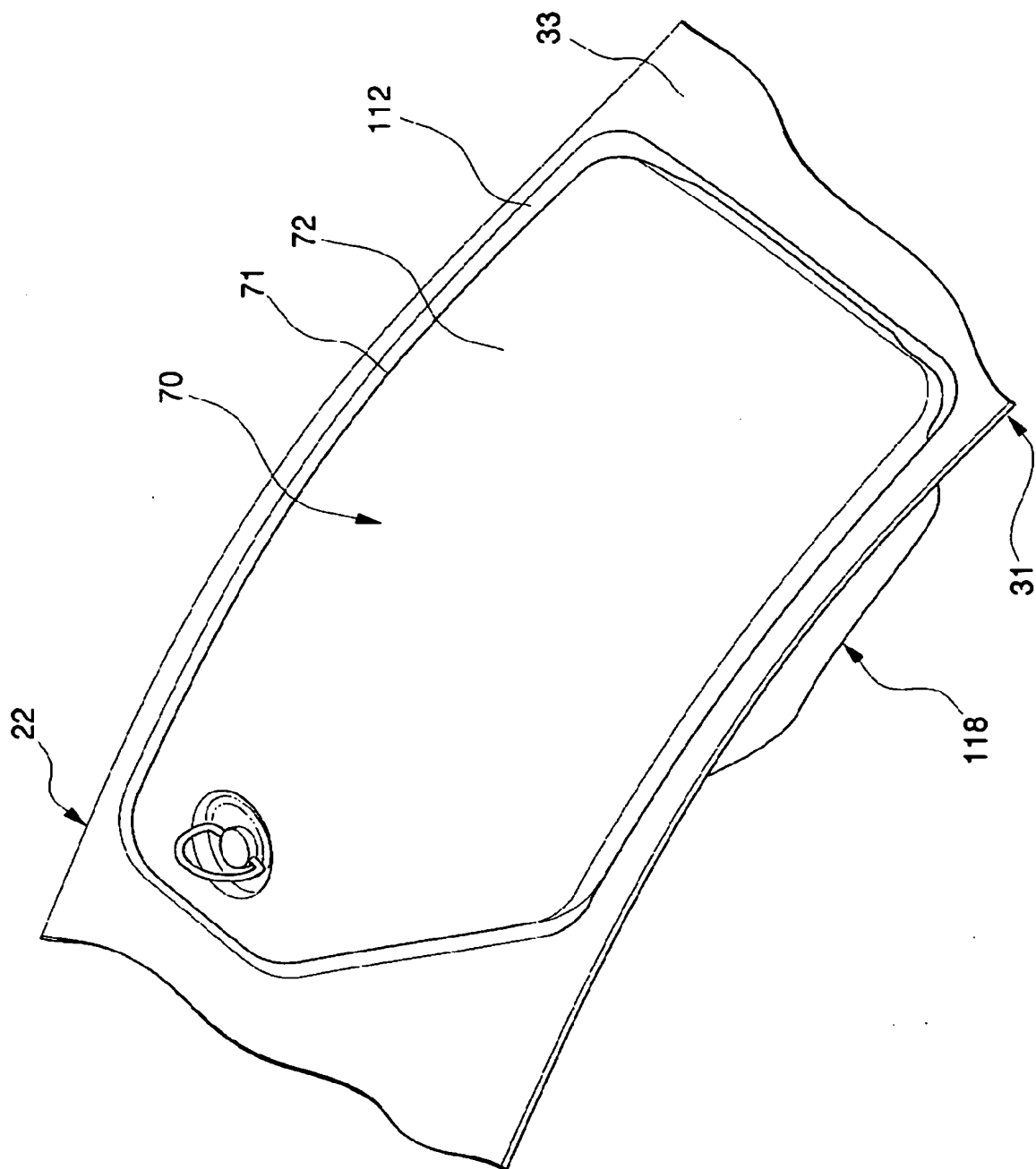
【図 13】



【図 14】



【図 15】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 外観性を向上させることができるとともに、十分な収納量を確保でき、さらに収納作業性を向上させることができる鞍乗り型車両の収納部構造の提供。

【解決手段】 車輪を覆うフェンダ 31 の傾斜面部 33 に下方に凹む収納凹部 35 を設けるとともに、収納凹部 35 の開口部 41 を開閉するリッド 70 を揺動可能に設ける。これにより、フェンダ 31 の外表面からの出っ張りを防止でき、その上で収納スペースを広くできて、開口部も広くできる。

【選択図】 図 2

認定・付加情報

特許出願の番号	特願 2004-064196
受付番号	50400378921
書類名	特許願
担当官	第三担当上席 0092
作成日	平成 16 年 3 月 11 日

< 認定情報・付加情報 >

【特許出願人】

【識別番号】	000005326
【住所又は居所】	東京都港区南青山二丁目 1 番 1 号
【氏名又は名称】	本田技研工業株式会社

【代理人】

申請人

【識別番号】	100064908
【住所又は居所】	東京都中央区八重洲 2 丁目 3 番 1 号 志賀国際特許事務所
【氏名又は名称】	志賀 正武

【選任した代理人】

【識別番号】	100108578
【住所又は居所】	東京都中央区八重洲 2 丁目 3 番 1 号 志賀国際特許事務所
【氏名又は名称】	高橋 詔男

【選任した代理人】

【識別番号】	100101465
【住所又は居所】	東京都中央区八重洲 2 丁目 3 番 1 号 志賀国際特許事務所
【氏名又は名称】	青山 正和

【選任した代理人】

【識別番号】	100094400
【住所又は居所】	東京都中央区八重洲 2 丁目 3 番 1 号 志賀国際特許事務所
【氏名又は名称】	鈴木 三義

【選任した代理人】

【識別番号】	100107836
【住所又は居所】	東京都中央区八重洲 2 丁目 3 番 1 号 志賀国際特許事務所
【氏名又は名称】	西 和哉

【選任した代理人】

【識別番号】 100108453

【住所又は居所】 東京都中央区八重洲 2 丁目 3 番 1 号 志賀国際特
許事務所

【氏名又は名称】 村山 靖彦

特願 2 0 0 4 - 0 6 4 1 9 6

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号

[0 0 0 0 0 5 3 2 6]

1. 変更年月日

1 9 9 0 年 9 月 6 日

[変更理由]

新規登録

住 所

東京都港区南青山二丁目 1 番 1 号

氏 名

本田技研工業株式会社